

年 組 名前 :

問1

JR 中央線でのシカなど野生動物の交通事故死を減らそうと開発したのは、どんな装置ですか。

.....

中央線 動物衝突事故 2年で1.6倍 音でシカ撃退 試験導入



大月、甲州13カ所に装置

支社によると、高尾ー小淵

支社は中央線高尾ー小淵沢間の動物との衝突件数の約4割を占め、多発区間となっている初狩ー笹子間、甲斐大和ー勝沼ぶどう郷間など、大月、甲州両市内の計13カ所に装置を設置。1月14日から1年間、試験する。

支社の下村直樹支社長が24日、甲府市内で開いた会見で明らかにした。支社や装置を開発した「ティ・エム、ワイクス」(富士河口湖町船津、轟秀明社長)によると、装置はシカなどの野生動物が嫌がる12、30分の高周波音を約70分先まで照射し、装置の周辺に近づかせない。人間にはほぼ聞こえないという。同社が野生動物の交通事故死を減らそうと開発した。

JR東日本八王子支社は24日、大月、甲州両市内のJR中央線の線路脇に、シカなどの野生動物が嫌がる高周波音を発生させて線路内への侵入を防ぐ装置を12月中旬から設置すると発表した。昨年度、中央線(高尾ー小淵沢間)で野生動物との衝突は100件を超え、2017年度の1.6倍に増えたことから、新兵器を導入する。(磯村達平)



問2

装置の導入を決めた2つの理由は何ですか。

①
②

沢間は2019年度、動物との衝突が108件発生。17年度は69件、18年度77件で増加傾向にある。本年度は10月末までに62件で、昨年度同期(53件)を上回っている。

支社はこれまでに、県内で全長28キロの区間にシカ侵入防止柵を整備するなど対策を実施。ただ、柵が途切れる踏切

JR東日本八王子支社が導入する装置
——甲府市内の1丁目から侵入されるなど、「効果的な対策は見当たらない」(下村支社長) 状況だった。一方、富士急行は2018年夏ごろから富士急行線の複数の場所に装置を設置。担当者は「一定の効果があったと考えている」としている。支社は富士急行での実績を踏まえて導入を決めたという。下村支社長は「野生動物が線路に近づかなくなること期待しており、衝突事故が少しでも減ればいい」と話した。

(2020年11月25日付 山梨日日新聞24面)

問2

装置は、衝突事故多発区間となっている「(A)、(B)両市内の計(C)カ所」に設置します。(A)、(B)、(C)に言葉や数字を入れてください。

(A) 「 」 (B) 「 」 (C) 「 」